

## 「Spring has Come !」



祝初優勝！ このまま走るか #21

2016K 耐久/GT 耐久東海シリーズが今年も開幕。愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。毎戦接戦となるこのシリーズ、小型・普通車を使う耐久シリーズとしては稀有な存在として各方面から注目度も高い。気温はまずまずだが少々風の強い、早春の蒲郡地方。春が来たのはどのチームか。

### 「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1850ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

昨年はGE型フィット(2代目)が初優勝からそのままシリーズチャンピオンというビクトリーロードを歩んだ。さまざまな車種がエントリーするこのクラスでは今年からNAリア駆動車の排気量が拡大された。具体的には1800までのロードスターなどが対象になる。

さらにEN(エンジン)クラスとしてそれぞれのマシンに応じて、基準タイムが設けられそのタイムより速く走ると章典外というルールで行われる。

今回はOPクラス適合マシンのロードスターでENクラスに参加のチームがある。

### ■予選

予選トップは#21「ZEST ルブロススターレット」1'04.018、昨年から投入されたこのマシン、これまでの自己最高位は2位、いよいよ初優勝のチャンス到来。

2位は昨年の王者#15「IDI KAMCO★フィット」1'04.542、新たにIDIカラーに彩られ、タイトル防衛を目指す。3位#411「AITAC スイフト」1'04.712、4位#107「ウエリース ロードスター 1号」1'04.809とここまで04秒台、本当に速くなりました。

5位は昨年開幕戦優勝車の#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」1'06.157、6位は#318「剛式レーシング 318is 耐久号」1'06.660、7位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が1'07.026、8位は#11「アンリミテッド DXL マーチ」1'27.255、トラブルを抱えているようだが、予選は無事通過。

今季新設のENエンジンクラスだが、エントリー済の#99「しんかい 2500 スイフト」は残念ながらリタイヤしたため、#77「ウエリース ロードスター 2号」1'06.660のみが表彰対象となる。

### ■序盤

初優勝に燃える#21「ZEST ルブロススターレット」が序盤トップを行く。追いかけるのは#107「ウエリース ロードスター 1号」、#411「AITAC スイフト」、#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」といったあたり。

#15「IDI KAMCO★フィット」は早めのピットイン作戦か、現時点では5位。6位#318「剛式レーシング 318is 耐久号」、久しぶりの登場BMはこの位置。7位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、ENクラス#77「ウエリース ロードスター 2号」を挟んで8位#11「アンリミテッド DXL マーチ」、トラブルが解決されたのか気になるが、しっかりとペースを築きたい。



昨年のチャンピオン、開幕戦は2位 #15



初表彰台 #411



しぶとさでは定評のある #46

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■中盤

一旦ピットストップで首位を明け渡すが、すかさずトップに返り咲く#21「ZEST ルブロススターレット」、2位には同じくピット明けで上位に上がってきた#15「IDI KAMCO★フィット」、本命同士のバトルだ。

3位争いも白熱、#411「AITAC スイフト」が中心となって#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、#318「剛式レーシング 318is 耐久号」が競り合う。実にバラエティ豊かな争い。

後輪駆動レギュレーションによって1+2に入るのはこのBMWとロードスター。  
#107「ウエリース ロードスター 1号」とENクラスの同2号はこの辺りを走行。  
序盤から今一つ調子の上がらなかった#11「アンリミテッド DXL マーチ」だが、39周で戦列を離れることに、残念。さらに#107「ウエリース ロードスター 1号」も67Lapでエンジンプローにて終戦となる。

## ■終盤

ゴールまであと1時間、トップは相変わらず#21「ZEST ルブロススターレット」104Lap、2位は#15「IDI KAMCO★フィット」101Lap、3位#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」99Lap、4位#411「AITAC スイフト」98Lap、5位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」95Lap、ENクラス#77「ウエリース ロードスター 2号」95Lapというオーダー。

#318「剛式レーシング 318is 耐久号」もエンジンが不調となり、プラグ交換などを試みるが結局リタイヤとなってしまふ。中盤から終盤にかけて各チームが戦列を去ってしまった。



ちょっとヒヤツとしたぞ #11



クラス唯一のBM #318



こっこのNBは赤 #107



多彩なバトル



残念ながらリタイヤ #12

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

結局最後までトップを譲らなかった#21「ZEST ルブロススターレット」がクラス初優勝。#15「IDI KAMCO★フィット」は3Lap 差の2位、3位は#411「AITAC スイフト」が競り勝ち表彰台。#411 は中盤でペナルティ実行遅れで1周減算などもあったが初表彰台。

4位はしぶとさが身上の#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、5位#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、ここまでが完走。

この#11 ヴィッツは終盤でガソリンが漏れるという事態が発生、幸いにして出火などには至らなかったが、危険な状態には違いない。今一度各車点検をしてもらいたい。

EN クラスの#77「ウエリース ロードスター 2号」だが、基準タイムをコンマ3秒ほど上回ったことで、章典外、ポイント無となった。

## ■総評

新クラスの創設や、後輪駆動車の排気量区分の拡大など、変化のあった開幕戦だがリタイヤが多く目についた。さまざまな事情があるにせよ、メンテナンス漏れをなくすことは貴重なポイントを失わないことにつながるの、ぜひもう一度各チームはマシンの点検をしていただきたいと切に願う。

危うく出火という事態も招きかねない、高速耐久であることを再確認させられる一戦であった。

とはいえ、昨年のチャンピオンチームに土をつけた#21「ZEST ルブロススターレット」、念願の初優勝でこのまま波に乗るのか。それとも#15「IDI KAMCO★フィット」が王者の力を見せるのか…

また今回は残念だったが、FRのマシンの増加は、今後に期待の持てるものとなった。



エンジョイし過ぎて速すぎた！？ #77



鈴菌発見！





盤石の勝利か #110



最後追い切れず 2位 #62



逆転で表彰台 #106



開幕戦は 4位 #111



## 「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロードクラス）

昨年の3Cクラスは開幕戦に勝利した#87「IDI SYCシビック」が、そのままチャンピオンへまっしぐらというシーズンであった。開幕戦に揃ったのは4チーム、いづれも3Cクラスを知り尽くした猛者たち。さあバトルの始まりだ。

### ■予選

予選トップは#110「DXL アライメント浜松レビン」1'01.815、昨年は1勝をあげランキングは2位、今年狙うはチャンピオン。2位は#62「WN ワコーズCLNシビック」が1'03.037、こちらもチャンピオン経験者、3年ぶりの王座奪還なるか。3位は#106「D&M スパイクオート 106」1'04.127、ドライ路面では厳しいが、そこは手練れのライオン使いの技でカバー。4位は#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」1'05.837、今年はキャンピングカーを導入、環境を良くするのも一つの手。

### ■序盤

序盤から#110「DXL アライメント浜松レビン」と#62「WN ワコーズCLNシビック」の一騎打ち、前は#110「DXL アライメント浜松レビン」。3番手・4番手も#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」と#106「D&M スパイクオート 106」で僅差のバトル。

### ■中盤

中盤戦は#110「DXL アライメント浜松レビン」が優位に進める。#62「WN ワコーズCLNシビック」も何とか食らいついていきたい。3位争いも熾烈も#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」と#106「D&M スパイクオート 106」のどちらが抜け出すか。

### ■終盤

終盤になってもガッチリ首位をキープは#110「DXL アライメント浜松レビン」。#62「WN ワコーズCLNシビック」は1周差を何とか追いつきたいが、#110はうまくコントロール。

表彰台争いの方は、今のところ#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」が先行だが、最終ステントでの逆転はあるか。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

結局最後まで隙がなかった#110「DXL アライメント浜松レビン」が開幕戦のウィナーに。2位は1Lap が詰められなかった#62「WN ワコーズCLNシビック」。3位は#106「D&M スパイクオート106」が滑り込み、4位は最終ステントでの逆転を許した#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」という最終結果。

## ■総評

昨年のべ14チームが参加した3C、開幕戦は少々少なかったが争いは濃密だった。開幕戦の様子を見ていると#110「DXL アライメント浜松レビン」を軸に争われそうだが、はたしてどうなるか。魅力的なニューカマーの参加が期待される。





予選・決勝・ファステストラップと完璧 #19



3Sらしいエキゾースト #20



音といえば、やはり 4A-G！ #405

## 「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

連続チャンピオンを狙った、#19「YADOKARI シビック」だったが、昨年は惜しくもランキング 2 位。今年は王座奪還できるか。久しぶりのゼッケン 20 番、MR2 ターボも参加。”昭和な”#405「インフィニティー FX」も加えての 3 台。

### ■予選

予選は#19「YADOKARI シビック」、1' 01.597 で全体の PP。コンマ 187 差で横につけるのは#20「久興自動車☆ブラック☆MR2」1' 01.784、フロントロー対決。プラクティスでは走行した#405「インフィニティー FX」だが、予選計測時にはコースに出ることはできず、ノータイム。最後尾のグリッドに付いた。

### ■序盤

序盤からトップに立つのは#19「YADOKARI シビック」、いきなりファステストラップを出すなど、スイスイと全体の先頭を行く。#20「久興自動車☆ブラック☆MR2」もターボパワーを活かして付いていく。#405「インフィニティー FX」、様子を見ながら周回を重ねていきたい。

### ■中盤

中盤も#19「YADOKARI シビック」は順調、早くも 5Lap ほどの差を 2 位につける。#20「久興自動車☆ブラック☆MR2」も離されたくはないが、ペース的には#19の方が上か。#405「インフィニティー FX」、完調ではないが完走を目指す戦い。

### ■終盤

終盤においても#19「YADOKARI シビック」の優位は揺るがない。2 時間経過で 5Lap 差は安全圏内か、だが油断は禁物。#20「久興自動車☆ブラック☆MR2」はもうひと踏ん張りできるか。こちらもうひと踏ん張りしたい#405「インフィニティー FX」、この分だと完走はできそうだ。

### ■最終結果

結局#19「YADOKARI シビック」が完勝、総合チェッカーで花を添えた。20「久興自動車☆ブラック☆MR2」も最後に自己ベストで 2 位表彰台。3 位は無事完走で表彰台獲得の#405「インフィニティー FX」。

### ■総評

首位発進の#19「YADOKARI シビック」、今回は流石のレース運び。チャンピオン奪回にむけて最高のスタートを切った。

